

# Br. Holdings Report

第16期 中間報告書

平成29年4月1日～平成29年9月30日



# 「人と人」「技術と技術」の橋渡し

---

ビーアールホールディングスグループは、異なる事業特性・成長ステージを擁するグループ企業で構成された企業群を目指します。そのグループ全体をまとめ、企業価値の最大化に努め、資本効率のさらなる向上を目指すのが、ホールディング・カンパニーとしての当社の役割です。欧州統一通貨ユーロ紙幣の裏面は、全てのコミュニケーションを象徴する橋のイメージのデザインで統一されています。株式会社ビーアールホールディングスの経営理念も同じです。技術で社会に貢献する企業グループとして、これからも「人と人」「技術と技術」の橋渡しをすることに取り組んでまいります。



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて、当社第16期の第2四半期連結累計期間の決算(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)が終了しましたので、当社グループの業績及び事業活動の概況をとりまとめご報告させていただきます。

### 当社グループの第16期上半期の業績は上場以来最高益を記録しました。

当上半期受注高が8,429百万円と前年同期(11,042百万円)から23.7%減少しましたが、第15期の受注高が過去最高の31,465百万円と前期(25,277百万円)を24.5%上回り、その結果、建設事業の期首手持工事高が27,504百万円と前年同期(21,379百万円)を大幅に上回りました。この期首手持工事は、比較的高い利益率が見込める工事が多く、工事の進捗率が順調なため、当上半期の売上高は11,108百万円と前年同期(10,292百万円)から7.9%と微増でしたが、経常利益は771百万円と前年同期(160百万円)の約4.8倍に、親会社株主に帰属する四半期純利益は478百万円と前年同期(35百万円)の約13.6倍と大幅に改善し、当上半期業績は上場以来最高益を達成することができました。

**速報** 当社グループの平成29年4～10月の7か月間の受注高は15,750百万円と過去最高を記録しました。

当社グループの当上半期の受注高は、前年度末の大幅な受注増による配置技術者の不足と、9月末に多額の入札後保留物件を抱えていたこともあり、当上半期6か月間の受注高は8,429百万円と前年同期(11,042百万円)から23.7%減少と低迷していましたが、第3四半期に入り1か月間で保留物件の契約も順調に進み、この7か月間の受注高は15,750百万円と前年同期(11,888百万円)から32.5%増加し過去最高を達成することができました。

### 受注増に伴う技術者不足と技術力向上への対応

当社グループは、5年以上前から技術者が不足することを予想し、当社グループの技術系職員は65歳を超えても在籍可能

とする制度を整備しております。これに加えて2～3年前から30名を超す経験豊富な技術者をACE(Advanced Civil Engineer)として中途採用してきました。また、教育機関との共同研究等から工学博士や技術士を増員するとともに不況時の3～4倍の新卒採用を実現してきました。この技術者の拡充に比例して受注も拡大しております。

### 「技術で社会に貢献する」

当社は、企業グループとしてCSRを積極的に推進するとともに、これからも資本効率の向上を忘れることなく、より多くの皆様のご期待にお応えできるよう邁進してまいりますので、引き続きのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年11月



代表取締役社長

藤田 公康

### Profile

(株)ビーアールホールディングス  
代表取締役社長 藤田 公康  
(昭和25年9月9日生)

- 昭和49年 慶応義塾大学法学部  
政治学科卒業
- 昭和51年 ハートフォード大学  
経営学部修士課程卒業  
(MBA)
- 昭和51年 大塚製薬(株)入社  
企画課長
- 昭和56年 極東工業(株)(現極東興和(株))  
入社 取締役社長室長
- 昭和60年 同社代表取締役社長
- 平成5年 同社代表取締役会長
- 平成14年 当社取締役
- 平成17年 当社代表取締役社長(現任)

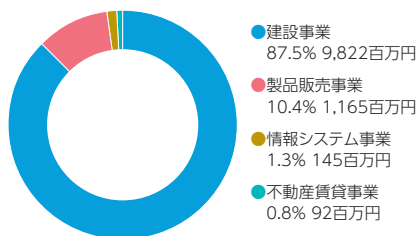
### <兼職>

- 昭和63年 (社)広島青年会議所 理事長
- 平成2年 (社)日本青年会議所 会頭
- 平成27年 極東興和(株)  
代表取締役社長

## 各事業区分の主要な内容

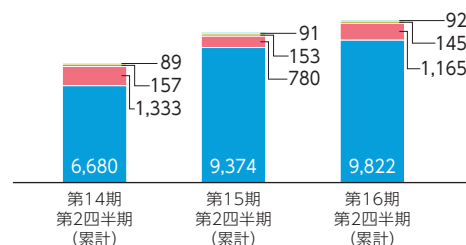
- 1 **建設事業**  
橋りょう土木工事の設計・施工
- 2 **製品販売事業**  
コンクリート二次製品の販売
- 3 **情報システム事業**  
システム開発・販売
- 4 **不動産賃貸事業**  
当社ビルのマンション賃貸運営等

売上高構成比



(注)セグメント間取引を含めております。

売上高推移(百万円)



### 建設事業

売上高  
**98億22百万円**

前年同期比  
4.8%増



建設事業におきましては、9月に開札された大型物件の落札決定が10月に持ち越しとなったことにより、前年同期と比べ受注高が減少し、当第2四半期連結累計期間の受注高は66億70百万円(前年同期比28.6%減)となりました。一方、前期からの手持工事が順調に進捗したことにより売上高は98億22百万円(前年同期比4.8%増)、セグメント利益は11億72百万円(前年同期比107.4%増)となりました。

### 製品販売事業

売上高  
**11億65百万円**

前年同期比  
49.3%増



製品販売事業におきましては、当第2四半期連結累計期間の受注高は前年同期並の14億43百万円(前年同期比3.0%増)となりましたが、建築部材の出荷数量が増加したことにより、売上高は11億65百万円(前年同期比49.3%増)、セグメント利益は91百万円(前年同期比89.7%増)となりました。

### 情報システム事業

売上高  
**1億45百万円**

前年同期比  
5.7%減



情報システム事業におきましては、国内のIT関連需要は増えてきており、既存顧客企業のIT投資が徐々に増えておりますが、企業収益や設備投資の格差、都市部と地方の格差などまだら模様で不透明な状況が続いております。当第2四半期連結累計期間の売上高は1億45百万円(前年同期比5.7%減)、セグメント損失は11百万円(前年同期 セグメント損失16百万円)となりました。

### 不動産賃貸事業

売上高  
**92百万円**

前年同期比  
1.0%増



不動産賃貸事業におきましては、当社保有の極東ビルディングにおいて、事務所賃貸ならびに一般店舗・住宅の賃貸管理のほか、グループ会社の拠点として、当社が一括して賃借した事務所を各グループ会社に賃貸しており、安定した売上高を計上しております。当第2四半期連結累計期間の売上高は92百万円(前年同期比1.0%増)、セグメント利益は57百万円(前年同期比1.6%増)となりました。

Topics

1

## 香椎高架橋(A1-P2)〈極東興和株〉

香椎高架橋は、福岡市における博多バイパスの一環として、福岡市東区香椎地区にかかる橋梁です。博多バイパスは、昭和43年度から事業を開始し、福岡市東区下原から二又瀬までを結ぶ延長7.7kmで構成され、既に一部の区間が供用されています。この博多バイパスが完成することで、現在の国道3号線や周辺道路の交通渋滞が緩和され、通勤・通学・買い物等の日常的な移動も円滑化し、暮らしの快適性向上が期待されています。本橋梁の構造形式は、ポストテンション方式PC3径間連結中空床版で、橋長96mの内A1-P2区間58mを施工しました。住宅密集地における工事となりましたが、上下線の同時施工による工程短縮の実施や、地域住民とのコミュニケーションを円滑に行うため、地域行事への参加、現場ホームページの開設などを実施し、発注者からは、高い評価をいただきました。



## 京田辺八幡ジャンクション Lランプ2号橋〈極東興和株〉

Topics

2



Lランプ2号橋は、新名神高速道路城陽ICと京田辺八幡IC間に位置する橋梁です。橋長は209m、有効幅員は7m、橋梁の曲率はR=80mであり、横断勾配は最大8%、縦断勾配は最大4.5%で、非常に複雑な形状を有している橋梁でした。

本橋梁は、新名神高速道路の城陽ICと京田辺八幡IC間の開通に向けて最後に発注された橋梁であり、当初から工程短縮を要求されました。当社は、詳細設計の段階から施工案を提示し、また、施工中にも発注者と新技術の活用を協議しながら工程の短縮と品質管理・安全管理の両面を満足する様に提案を行い、実際の施工に反映して橋梁の引き渡しを平成29年3月27日に完了致しました。

当初より、開通時期が迫った中での施工でありましたが、施工方法の改善と新技術の積極的な採用により、工程を短縮しました。



Topics

3

## 山田橋他1橋床版取替工事〈極東興和株式会社〉

中国自動車道山口JCT～美祢東JCT間に架かる下九田川橋（上り線）、山田橋（上り線）は、供用開始から40年以上が経過し、経年劣化による漏水やひび割れ等が広範囲に広がってきており、早急な対応が必要となりました。

本工事では、高品質かつ高耐久なプレキャストPC床版を大分工場で作成して床版取替による全面補修を実施します。施工順序は迂回路施工後、上り車線を下り車線に切り替え、施工区間の橋梁中央から起点、終点方向にそれぞれ既設床版を専用油圧ジャッキにて剥ぎ取り、大型トラッククレーンで新床版を架設します。

供用区間と近接していますので第三者災害防止を重点目標に作業所一丸となって品質のよい構造物を災害0で竣工を目指します。



## 萩沢本線橋 〈東日本コンクリート株式会社〉

Topics

4

萩沢本線橋は、宮城県北部において太平洋側沿岸の三陸縦貫自動車道と、内陸部を縦断する東北自動車道を東西に結ぶ「みやぎ県北高速幹線道路」として新設する橋梁です。

本橋梁は現在供用中の加倉IC Aランプを跨ぐ位置に架橋することから、一時迂回路を設け、通行止め期間中に他工事による道路改良と架設を行う計画でした。しかし、工事の混在により事業に遅れが生じ始めたことを受け、架設工法の変更を提案し使用するヤードの範囲を大幅に狭めたことにより、周辺工事を含めた工期内完成を迎えることができました。また工程・周辺環境共に制約がある中でも、本工事での安全対策・品質向上への取り組みに対し、発注者から高評価をいただきました。



Topics

5

## 浜玉橋耐震補強工事〈極東興和株〉

浜玉橋耐震補強工事は、国土交通省佐賀国道事務所より発注された工事で、今回が第2期目の工事となります。前回の工事と同じく今回も橋脚の塩害およびアルカリ骨材反応対策として、当社のリハビリカプセル工法が採用されました。

リハビリカプセル工法は、躯体に削孔した穴に特殊なパッカーとカプセルを取付けて、空気の圧により防錆とアルカリ骨材反応の抑制効果のある亜硝酸リチウムという薬剤をコンクリート中に注入・拡散させる工法です。第1期目の工事においてこの工法が採用され無事完了し発注者様から高い評価をいただくことができました。



Topics

6

## 歩道設置工事(交付金)〈極東興和株〉



本工事は、愛知県豊田市の一般国道301号の歩道整備に伴い歩道拡幅のため張出歩道を設置するものでした。

施工箇所の地盤は、1m～8m程度という比較的浅い深度で支持層となる花崗岩が出現するが、支持層の起伏が非常に激しいこと、中間層に直径2mもありそうな巨礫が存在するという地盤条件と、道路脇はすぐに斜面になっていることや道路を解放しながら施工しなければならないというスペース条件での工事となりました。

基礎形式について工事発注時は他の工法にて計画されていましたが、試掘を実施した結果、地盤状況から施工不可能との判断となり、支持層の岩盤や中間層の巨礫といった硬質地盤での施工が可能である工法としてSTマイクロパイル工法(タイプI)に工法変更し、採用となりました。

施工区間は通学路になっており、通学時間帯は多くの児童や生徒さん達が通行するため、現在の狭い歩道ではなく、一日も早く整備された広い歩道を通して安全に通学していただくことを願っております。



平成23年3月11日の東日本大震災の発生から約6年半が経過しました。当社グループでは、一刻も早い復旧・復興を願い関連事業に取り組んでまいりましたが、今後も継続して努力する所存です。

なお、復旧・復興事業だけでなく、今後の震災時における被害低減対策においても地域の安全・安心に貢献しており、その取り組み例をご紹介します。

**① 津波漂流物対策施設設置工事**  
(宮城県仙台市)

東日本  
コンクリート(株)

**津波漂流物対策施設**

津波の押し波・引き波による車両・コンテナや木材等の漂流物から、人命や財産が失われることを防止するための施設です。東日本コンクリート(株)では、平成28年以降3工区を受注し施工を行っています。



**② 都市防災総合推進事業**  
**津波避難タワーLブロック**  
設置工事 (静岡県牧之原市)

極東興和(株)

**津波避難タワー(高耐久マイクロパイル)**

静岡県牧之原市は、東日本大震災の津波被害を教訓に、将来発生が想定されている南海トラフ巨大地震による津波に備えた防災まちづくりに取り組んでおり、その一環として建設された津波避難タワーの基礎部分に当社独自技術である高耐久マイクロパイルが活用されています。

この施設が役に立つことがないことを願っていますが、万一の場合には地域住民の命を救う施設となるでしょう。



**③ 定川河川災害復旧工事** (宮城県東松島市)

東日本コンクリート(株)

**定川河川災害復旧工事**

東日本大震災により、宮城県東松島市の定川も河口から約6.2kmの区間が津波による越水や堤防破壊、地震動による堤防沈下という被害を受けました。平成27年2月より、延長約3.9kmの工区について被災した堤防を復旧し、堤防高を震災前より約1.2m高上げる工事を行っています。





## 四半期連結貸借対照表のポイント

(単位：千円)

	当第2四半期末 平成29年9月30日現在	前連結会計年度末 平成29年3月31日現在
流動資産	17,125,632	16,306,157
固定資産	4,435,053	4,350,906
有形固定資産	3,733,743	3,612,474
無形固定資産	107,522	108,301
投資その他の資産	593,787	630,130
資産合計	21,560,685	20,657,063
流動負債	15,363,090	14,852,413
固定負債	981,489	1,089,868
負債合計	16,344,579	15,942,282
純資産	5,216,106	4,714,781
負債・純資産合計	21,560,685	20,657,063

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## POINT

### 四半期連結貸借対照表

当第2四半期連結会計期間末の総資産は215億60百万円となり、前連結会計年度末比9億3百万円の増加となりました。その主な要因は、受取手形・完成工事未収入金等が11億13百万円減少したものの、未成工事支出金が8億27百万円、商品及び製品が8億3百万円、未収入金が3億20百万円、現金預金が1億32百万円増加したことによるものであります。有利子負債は2億62百万円減少し、42億26百万円となりました。純資産は、株主配当金77百万円の支払を実施したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益4億78百万円の計上等により、前連結会計年度末比5億1百万円増加の52億16百万円となりました。

## 四半期連結損益計算書のポイント

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 平成29年4月1日～ 平成29年9月30日	前第2四半期累計期間 平成28年4月1日～ 平成28年9月30日
売上高	11,108,190	10,292,777
売上原価	9,220,995	9,071,256
売上総利益	1,887,195	1,221,521
販売費及び一般管理費	1,119,677	1,036,043
営業利益	767,517	185,478
経常利益	771,604	160,258
親会社株主に帰属する四半期純利益	478,383	35,460

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## POINT

### 四半期連結損益計算書

当第2四半期連結累計期間の売上高は111億8百万円(前年同期比7.9%増)、営業利益は7億67百万円(前年同期比313.8%増)、経常利益は7億71百万円(前年同期比381.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億78百万円(前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益35百万円)となりました。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 平成29年4月1日～ 平成29年9月30日	前第2四半期累計期間 平成28年4月1日～ 平成28年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	752,749	448,474
投資活動によるキャッシュ・フロー	△377,243	△177,864
財務活動によるキャッシュ・フロー	△342,522	212,470
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	32,983	483,080
現金及び現金同等物の期首残高	1,765,000	1,256,136
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,797,983	1,739,216

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## POINT

### 四半期連結 キャッシュ・フロー計算書

「現金及び現金同等物の四半期末残高」は、前連結会計年度末に比べ32百万円増加し、17億97百万円となりました。「営業活動によるキャッシュ・フロー」は7億52百万円の獲得(前年同期は4億48百万円の獲得)、「投資活動によるキャッシュ・フロー」は3億77百万円の使用(前年同期は1億77百万円の使用)、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は3億42百万円の使用(前年同期は2億12百万円の獲得)となりました。

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 平成29年4月1日～ 平成29年9月30日	前第2四半期累計期間 平成28年4月1日～ 平成28年9月30日
建設事業	6,670,993	9,337,252
製品販売事業	1,443,040	1,400,808
情報システム事業	222,481	212,995
不動産賃貸事業	92,662	91,760
合計	8,429,177	11,042,816

## 会社概要

Corporate Profile

## 会社概要 (平成29年9月30日現在)

商号	株式会社 ビーアールホールディングス Br.Holdings Corporation
設立	平成14年9月27日
本社所在地	広島市東区光町二丁目6番31号
電話	082-261-2860(代表)
資本金	3,017,041,000円
決算期	3月31日
従業員数	12名(連結526名)

## 代表者及び役員 (平成29年9月30日現在)

代表取締役社長	藤 田 公 康
取締役	多 賀 邦 行
取締役	山 根 隆 志
取締役	山 縣 修
取締役	石 井 一 生
取締役	天 津 武 史
取締役・常勤監査等委員	藤 並 信 幸
取締役・監査等委員(社外)	小 田 清 和
取締役・監査等委員(社外)	佐 上 芳 春

## グループの概況 (平成29年9月30日現在)

## 極東興和株式会社

本社所在地/広島市  
事業内容/PC構造物の設計・施工  
PC及びRC製品の設計・製造・販売等  
コンクリート構造物の診断・補修・補強等

## 東日本コンクリート株式会社

本社所在地/仙台市  
事業内容/PC構造物の設計・施工  
PC及びRC製品の設計・製造・販売等  
コンクリート構造物の診断・補修・補強等



## キョクトウ高宮株式会社

本社所在地/広島市  
事業内容/PC製品及びコンクリート二次製品の  
設計・製造・販売・施工等

## ケイ・エヌ情報システム株式会社

本社所在地/広島市  
事業内容/ソフトウェアの設計・開発及び販売等

## 豊工業株式会社

本社所在地/大分市  
事業内容/PC及びコンクリート二次製品の  
製造・販売等

## 株式の状況 (平成29年9月30日現在)

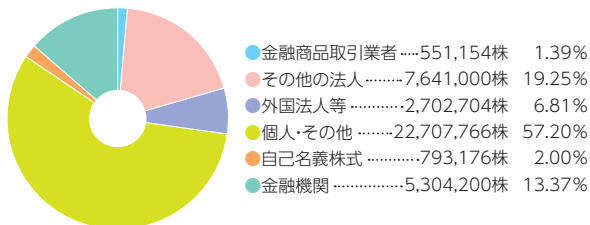
発行可能株式総数…………… 120,000,000株  
 発行済株式の総数…………… 39,700,000株  
 株主数…………… 25,973名

### ○大株主 (上位10名)

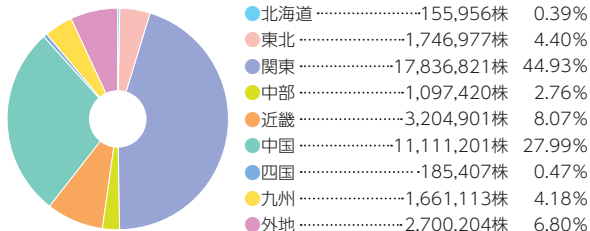
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
トウショウ産業株式会社	4,800	12.34
藤田 公 康	2,695	6.93
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	2,033	5.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,762	4.53
ビーアールグループ社員持株会	1,291	3.32
ビーアールグループ取引先持株会大阪支部	1,013	2.60
広成建設株式会社	988	2.54
ビーアールグループ取引先持株会広島支部	952	2.45
株式会社三菱東京UFJ銀行	800	2.06
遠藤 祐 子	733	1.89

(注) 持株比率は自己株式(793千株)を控除して計算しております。

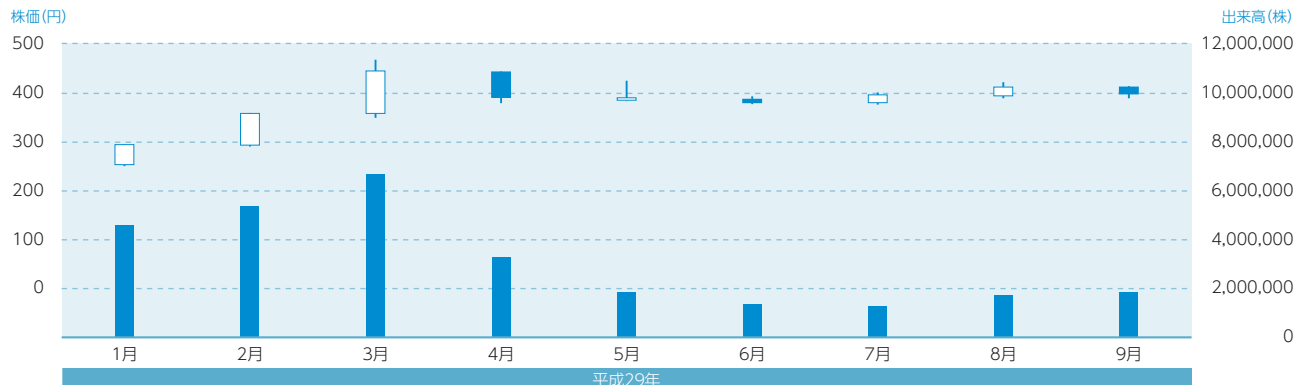
### 所有者別株式分布状況



### 地域別株式分布状況



## 株価の推移



## 株主メモ

---

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 当社ホームページ ( <a href="http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html">http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html</a> )にて掲載。 (ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。)

## 表紙写真について

---



### 港川高架橋(沖縄県浦添市)

〈極東興和株式会社〉

#### ○工事概要

4径間連結PC少主桁橋

橋長 L=164m 全幅員 W=13.5m

内閣府沖縄総合事務局発注で、平成29年12月の完成を目指しています。



株式会社 **ビーアールホールディングス**

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861

ホームページ <http://www.brhd.co.jp/>

IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧ください。

